

## 第 4 号 議 案

### 愛 労 連 知 事 選 闘 争 方 針 ( 案 )

1 9 9 5 年 1 月 1 4 日

第 1 2 回 臨 時 大 会

#### < 県 政 革 新 の 意 義 と 展 望 >

95春闘や4月の一斉地方選に先駆けてたたかわれる愛知県知事選挙が、1月19日告示・2月5日投票とすぐそこに迫りました。

ただ率直に言って、その割に街に選挙ムードは薄く県民の関心も低調です。ある意味ではそれも当然でしょう。

2千万円の賄賂をもらって現職の副知事・奥田信之が逮捕された5月以来、①当の奥田が「知事が知らぬはずはない」と明言している愛知芸術文化センターの建設費水増し疑惑(大手ゼネコンへの巨額の赤字補填)だけでなく、②公費の不正使用が発覚した知事の賤別受け取り事件、③1億円を越す知事交際費のための不正な予算流用、④鈴木再選工作のための元副知事による3万円の商品券贈与など腐りきった県政の実態が次々と明るみに出たのに、そのすべてに頬かむりして鈴木知事が四選出馬を決め、それを結局は共産党を除くすべての政党・会派と連合愛知が推薦した厚顔・無節操ぶりに多くの県民があきれはて、シラケと政治不信が広がっているからです。

しかし、だからこそ私たちは、こんな県政をまた4年間も続けさせるわけにはいきません。

幸い私たちの結集する「革新県政の会」は、9月末というかつてない早い時期に革新無党派の医師・徳田秋氏という最良の候補者を擁立し、以後3ヶ月「県民が主人公の清潔であたたかな県政」「憲法をくらしに生かすみんなの県政」の実現に向けて着実に運動を広げてきました。とりわけこの3ヶ月、精力的に県下を巡る“暮らしのドクター”徳田秋氏の訴えは、その誠実な人格と鋭い気迫、知事候補にふさわしい高い見識で人々に感動を与え、広く県民の心をとらえはじめています。この徳田予定候補の決意を急いで職場と地域に広げ、政治不信を怒りに変え、県政の私物化や県民泣かせの悪政への批判を結集するとともに、広範な県民の願いと要求を束ねて鈴木四選を阻止し、今度こそこの愛知に清潔な革新県政を実現するという、熱い県民世論をまきおこす必要があります。

今回の知事選の意義・争点は、「汚職・腐敗の県政から清潔な県政へ」の転換にとどまりません。「自民・財界べったりで県民に冷たい県政」を変え、「国の悪政から県民のくらしを守るあたたかい革新県政」「県民が主人公のみんなの県政」を実現する重要な意義を持っており、くらし・福祉・教育・環境など、切実な要求実現の絶好のチャンスでもあります。

実際、3期12年に及ぶ鈴木県政の下で県民のくらし・福祉・教育・環境はどうなっ

たでしょう。

県民のくらしは今、年金の大改悪、消費税引き上げ、入院給食費の自己負担、コメ輸入自由化などの悪法がやすやすと成立する翼賛国会の下で次第に厳しいところに追い込まれ、大変な不安を抱えています。

また、愛知の工業出荷額が17年連続で日本一を誇り、長びく不況の下でも大企業の内部留保は一貫して増えているのに、オークマの乱暴な定年切り下げをはじめ、トヨタ、新日鐵、NTTなどいたるところでリストラ「合理化」＝賃金・人員削減と中小下請けいじめの嵐が吹き荒れています。円高を理由とする企業の無責任な海外進出と産業空洞化も加速度的に進行しています。この下で、とりわけ中高年労働者と零細業者の不安・苦痛は耐えがたいものとなり、女子学生を中心に、青年の就職難もかつてない深刻さを見せています。さらに、全国に衝撃を与えた西尾の中学での「いじめ自殺」事件が象徴するように、教育・子育てをめぐる父母・子どもたちの悩みも年ごとに深刻になっています。

しかし、鈴木県政の目や耳は、そもそもこうした県民の現実と声とははまったく向けられていません。それは常に、財界・大企業と中央の「自民党政治」に向けられてきました。

だからこそ鈴木県政は不況・増税の中でも平然と公共料金値上げを強行し、中小企業への公共事業発注率を無慈悲に減らし続け、大企業のリストラ「合理化」も野放しにして労働者と下請け零細業者の苦しみを放置してきました。また、福祉行政でも特別養護老人ホーム定員が全国ワースト3位、乳幼児保育普及率ワースト3位にあることに何の痛みも感じていません。さらに教育の分野では、380万もの県民の反対署名に背を向けて複合選抜入試導入を強行するなど進学受験競争をあおり、生徒が減って空き教室が出ているのに高校進学率はワースト2位（92%の定員枠）に据え置き、他方で教師にも子どもにも「管理主義」的体制ばかりを強めています。

その一方で鈴木県政は、中部新国際空港、リニア新幹線、第2東名・名神など大企業奉仕、大型プロジェクト優先の開発行政をひたすら推進し、自然環境破壊など数々の重大問題についてまともな検討も県民合意もないまま、強引に瀬戸市・海上の森での万博開催計画を県民に押しつけようとしています。県民の怒りと不信が極に達している芸文センター疑惑をはじめ、続発する疑惑や腐敗はまさにこのような、県民に背を向けたゼネコン型の開発中心政治、大企業本位の県政とオール与党体制の帰結であり、愛労連を各種審議会・委員会的一切から排除する策動も、正面からの批判が恐いからに他なりません。

第3に今回の知事選は、新・旧連立政権が悪政のスピードを競い合う翼賛国会に厳しく「ノー」を突きつけ、平和で豊かな日本の未来を切りひらく点でも、きわめて重要な意義を持っています。

村山政権の下で、国会が国民いじめの悪法製造機関に化していることは既に述べました。ただ注意すべきは、これが21世紀・日本の軍事・経済大国化をにらんで進められ

(3) 単産・単組と地域は、地域連絡会に結集する係を決め、できるかぎり地域とともにとりくむようにします。

なお、ピラの全戸配布は地域を中心に、12月中旬に続いて年末～年始が第2弾の予定であり、ピラは年内に地域に届けられる予定です。

2. 愛労連が、春闘共闘委員会をはじめ他の労組にも呼びかけて発足させた「労働者選対」は、「会」の運動を労働者部隊として補強し、春闘前段のたたかいとも結合して独自の行動にもとりくみます。

(1) 「労働者選対」は単産・地域の代表者会議で意思統一して進めますが、屋上屋を重ねて会議倒れにならないよう、基本的には「会」の団体・地域代表者会議終了後、できるだけ短時間で意思統一するよう進めます。

(2) 「労働者選対」に事務局（若干名）を置き、運動の具体化や促進、代表者会議にはかる原案づくりなどにとりくみます。

メンバーは当面次の単産・単組に要請し、必要に応じて補強します。

- ・自治労連           ・同名古屋ブロック           ・愛高教           ・名高教
- ・国公共闘           ・運輸一般           ・国労           ・阿部事務局長（愛労連責任者）
- ・見崎副議長（労働者選対責任者）   ・坂崎副議長（「会」の組織部責任者）

(3) 「労働者選対」の事務所を愛労連3階応接間に置き、電話とFAXを引いて常駐体制を敷きます。

(4) 新年には、井上愛労連議長をはじめ多彩なメンバーで「労働者向けのアピール」を出すように努め、中立組合を含め広範な労組にも広めて支持・賛同署名の集約に活用してもらう等、工夫します。

(5) 組合員一人が10名との対話・支持拡大にとりくみます。

年内目標はとりあえず労働者全体で5万人とし、当面、毎週水曜日夜に単産・地域ごとに「労働者選対」事務局に状況報告を行なうようにします。

(6) 12・19と12・21の「労働者デー」に続き、正月には熱田神宮（10時～12時）をはじめとする「おめでとう宣伝」にできるかぎり参加し（熱田神宮は労働者60名が要請されている）、1・4三の丸宣伝行動（8時～）についてはできるだけ多数の参加で成功させます。

(7) 1月19日あさ10時～ 栄小公園での「出陣式」には、労働者300名を目標にとりくみます。

ており、読売が11月3日に打ち上げた「改憲試案」を引くまでもなく、はっきりと憲法改悪を射程に入れていると思われることです。「邦人救出」名目なら地球上のどこへでも自衛隊が飛んで行ける自衛隊法の改悪が、先の国会でほとんど報道もされないまま国会を通過したのもその同一線上にあります。

来年は戦後50年です。あの忌まわしい侵略戦争の教訓から、二度と再び戦争はしない、一切の武器を持たないと決めた先駆的な平和憲法は私たちの宝ですが、この憲法を守りぬくためにも、愛知の奮闘で翼賛政治に痛打を浴びせ、愛知から再び革新のうねりを作ることが求められます。

最後に勝利の展望について触れます。

誰もが感ずるであろうように、政党の組み合わせだけ見れば私たちは決定的に不利です。しかし、今回の知事選はいわゆる党派選挙ではありません。それに、大義もなく人心も離れた鈴木陣営は利権に群がる野合集団に過ぎず、私たちの陣営こそ「要求でも良心でも圧倒的な多数派」です。したがって、日本共産党を含めて「革新県政の会」に結集する113団体・20万人の奮闘次第では、党派を超えて県民世論を結集し、汚職・腐敗の鈴木陣営に勝利することは不可能ではありません。

ただそのためには、多くの県民に広がったシラケと政治不信を、私たち一人ひとりの熱い語りかけで怒りと行動に変えなければなりません。だからこそ愛労連の出番です。ゼネコン疑惑に象徴される県民不在の県政の継続を許さず、働くものの願いを実現し、人間らしく生き働く社会をつくるためにも、また95県民春闘勝利のためにも、愛労連に結集する私たちが「革新県政の会」の中核部隊として奮闘し、悔いのないたたかいを進めることが求められます。

## <具体的なたたかい方>

1. 愛労連と愛労連傘下の労働組合は「革新県政の会」の中核部隊です。したがって、すべての単産・単組や地域労連は、これまでのように直接「会」に結集し、「会」の提起する運動に自主的・積極的にとりくむことを基本とします。

(1) したがって、すべての単産・単組と地域労連は知事選闘争の「担当責任者」を決定し、独自の方針を持って旺盛にとりくみます。

(2) どの単産・地域も、春闘とも結合して独自の学習会や決起集会を持ち、知事選の意義や争点、たたかい方についての討議と意思統一を重視するとともに、徳田秋氏の「推薦・支持決議」にとりくみます。

またその際「一筆啓上ハガキ」を活用するなどして、県政への要求、組合員一人ひとりの願いを集約し、「会」にも届けます。

- (8) 労働者独自に、1月19日(木)夜6時半から名古屋市教育館講堂を超過員にして「95国民春闘・知事選勝利をめざす労働者1・19決起集会」を開催し、全労連・三上議長の基調講演を聞いて投票日までのたたかいについて意思統一します。
- (9) 選挙戦の最大の山場となる1月24日(金)夜の「政談演説会」(県体育館)には労働者5,000名の結集を目標とし、各単産・地域とも全力をあげて成功させます。
3. どの単産・地域も、春闘と結合して他労組への申し入れ行動にできるかぎりとりくむこととし、とくに日常的に結びつきのあるところは早期に申し入れます。
4. 組合員一人500円の納入をメドに、自主的・積極的な「革新県政実現カンパ」にとりくみます。
5. 愛労連の機関会議や春闘学習会では必ず知事選についても取り上げることとし、告示後のきめ細かいたたかいの方針は臨時大会で提起、確認してとりくみます。

## 知事選挙・当面のとりくみについて

(1)、猪突猛進・徳田大コール作戦（14日～16日）

各団体もっている宣伝カーを総出動させて革新県政実現をめざす。横断幕は、事前に各宣伝カーに届けます。

愛労連は、15日は成人式などの予定のない各単産の宣伝カーを運行します。

16日は、トヨタ総行動の終了後に名古屋にむけて宣伝カーを運行します。また空からのセスナ機での宣伝を行います。

(2)、出陣式の参加について（19日10：00・栄小公園）

参加数は労働者300人（実数）を目標に各単産の自主目標を決めます。

(3)、「1・24政談演説会」について

参加数は労働者5000人（実数）を目標に各単産で自主目標を決めます。

当日要員（30名）は別途要請します。また、労働者の決意表明は、その内容を含めて具体化し要請します。

(4)、革新号・政策カーの弁士について

11日 年金者組合、自治労連

12日 JMIU、運輸一般

13日 医労連、全国一般、（建設一般）

15日 全港湾、全動労

(7)、支持拡大と集約体制について

労働者選対は、16日から集約に入ります。

各単産は、担当者を決めるとともに単産内での集約体制の確立をして下さい。

(8)、労働者選対の事務局・幹事の常駐体制について

- ・事務局は、事務局団体に16日に具体化します。
- ・幹事会は、1日に2人体制で以下のようにします。

常駐日	常駐幹事	常駐日	常駐幹事
1月19日		1月28日	
20		29(日)	
21		30	
22(日)		31	
23		2月1日	
24		2日	
25		3	
26		4	
27		5(日)	

尚、緊急の体制については、その都度要請します。

(9)、「95国民春闘勝利・革新県政実現1・19総決起集会」について

主催を春闘共闘と愛労連とします。

<次第>

18:30

開会挨拶

主催者挨拶

革新県政の会挨拶

激励挨拶

「講演」 三上満全労連議長

決意表明 (官、民、青年、婦人)

行動提起

20:00

閉会挨拶、団結がんばろう

(10) 13氏の「アピール」の活用について

賛同署名の活動を展開します。

(12)、選挙期間中の春闘要求カーのテープを作成します。

(13)、単産・単組のとりくみ強化について

特に地域労連・地域連絡会への活動参加について、各単産からの加盟組織に対する支持・指導を重ねて要請します。



△労働者アピール▽

## 働く者が希望をもてる新しい時代を切り拓くために 革新県政の実現へともに力を合わせよう！

愛知にはたらく労働者のみなさん。  
不況を理由としたリストラ「合理化」の下、いま多くの職場で厳しい人減らしと賃金抑制、賃金「破壊」が進んでいます。労働は年ごとにきつくなり仲間の過労死もあとを絶たないのに、私たちの実質賃金は下がっている一方で、雇用もくらしもかつてなく大きな不安に襲われています。

加えて、村山内閣と新旧連立政権による翼賛政治のもとで、年金の大改悪や消費税の引き上げ、入院給食費の自己負担、公共料金の値上げなどが次々に強行され、労働者・県民のくらしを直撃しています。子どもも教育費も信じられないほど高くなっていますし、自分の健康も老後も不安です。「一体これからどうやっていくのか」「何とかならないか」という思いは、みんなに共通の思いではないでしょうか。

ところが、みなさん。  
国政と同様、日本共産党を除くオール与党に支えられた鈴木「翼賛」県政はこうした労働者・県民の深刻な実態を見ず、その切実な要求にも耳を傾けようとしません。そして大企業のリストラ「合理化」労働者いじめや下請けいじめを野放しにし、企業の海外進出による産業空洞化も手助けしています。また、財界が強く求める中部国際新空港やリニア新幹線、愛知万博など、大企業奉仕の開発行政を県政の中心に置き、福祉や教育は全国最低ランクに据え置いています。さらに、財界の別動隊として翼賛県政に全面協力する「連合」偏重の労働行政をすすめ、まともな労働者・労働組合いじめの差別行政を続けています。

その上に、愛知県芸術文化センター汚職事件をはじめ公費賤別や裏金（交際費）づくりに見られる「県政私物化」の横行です。マスコミが「県庁は伏魔殿か」と書きましたが、私たちがかねてから指摘してきたように、日本共産党以外オール与党の翼賛政治は財界本位・県民不在であるばかりでなく、金権腐敗政治の温床になることもはつきりしたと言わなければなりません。

ところが、みなさん。  
それでも鈴木知事は四選出馬を決め、これを馴れあい与党と「連合愛知」が推したのです。「恥ずかしくないのかー」いま、党派の違いを超えて、労働者・県民の間に怒りの声が大きく大きく広がっています。労働者のみなさん。

いま私たちは、九五春闘を闘おうとしています。近く告示される県知事選挙はその前哨戦です。春闘は、労働条件を引き上げる闘いとあわせて、憲法を職場とくらしに生かす国民本位の政治を国政にも地方政治にもつくる闘いです。シラケやあきらめ、政治不信は悪政をはびこらせるだけ。たたかってこそ労働者です。人間らしく生き働くことを願うすべての労働者のみなさん。

雇用、くらし、福祉、教育、環境など私たちの要求を実現し、国の悪政から県民のくらしを守る県政をつくるために、  
すべての労働者が人として尊重される差別のない公正な県政、県民が主人公の清潔であたたかな県政をつくるために、

働く者が希望をもてる新しい時代を切り拓くために、  
支持政党やナショナルセンターの違いを超え、みんなの力で革新県政をつくろうではありませんか。  
みなさんのご賛同と奮起を心から訴えます。

一九九五年一月八日

△以下、アイウエオ順▽

- 井上 利雄（愛知県労働組合総連合議長）
- 後藤 清満（国労名古屋地本委員長）
- 近藤 慎吾（新聞労連東海地連委員長）
- 佐藤 末七（革新県政をすすめる三菱の会）
- 生川 俊夫（元全金愛知地本委員長、元全金トヨタ自動機機労組委員長）
- 成瀬 昇（元愛労評議長）
- 西野 賑郎（職場の自由と民主主義を守る愛知連絡会議事務局長、中電争議団）
- 長谷川泰雄（東海マスコミ文化情報労組会議議長）
- 服部 信夫（前名古屋市労連委員長）
- 林 清（元名古屋市労連委員長）
- 平田 哲彦（新日鐵消費税をなくす会代表世話人）
- 村田 和穂（電通諸要求実現愛知県連絡会会長）
- 八ヶ代 亘（トヨタ革新統一懇談会世話人）

愛労連・交通運輸部会としての県政に対する要求をまとめました。  
ご意見を下さい。 — 調整の上、ビラ作成に取り掛かります。

1/9 谷藤

## 交通運輸労働者の県への5大要求

1. 公共交通機関の充実で誰でも利用できる“足”の確保を
  - ・ 障害者、精薄者、高齢者など交通弱者に対して、県内どこでも使えるタクシーなどへの助成制度を実施すること — 現在、各市町村段階で実施している助成制度の統一化を
  - ・ 通学定期に思い切った助成措置を
  - ・ (陸、海、空の)物流基地に公共交通を充実させ、勤務者などの足の確保を
  - ・ 過疎地における交通機関として、乗合タクシーの活用を
2. 自動車排ガス規制対策の強化
  - ・ 総量規制できれいな空気を — 東京では、土曜の夜8時から日曜の夜8時までトラックの走行が規制されています。
  - ・ 低公害車の普及対策を — 名古屋市では、12月に市内に営業所を持つ運送業者とトラックの更新時にNOx削減のための新補助制度を締結しています。
  - ・ 鉄道輸送の抜本的強化を
3. 物流関係に働く労働者の環境改善を
  - ・ 24時間物流稼働体制に対し、働くものの命と健康を守るため、規制措置を
  - ・ 港の365日稼働に対して、規制を
  - ・ ジャストインタイム納入方式に、規制を
  - ・ 物流拠点に緑地帯の設置を
  - ・ 主要国道沿いや物流拠点にトラック労働者の休憩施設の充実を
  - ・ 交通労働者に最低賃金制度の確立を
4. 交通事故対策の強化を
  - ・ ガードレールの設置の不法駐車対策を強化
  - ・ 街路灯の整備で「交差点事故」の撲滅を
  - ・ 自家用車通学を抑制するため、都市周辺部の大学への交通アクセスの充実を
  - ・ 大学生など若者への安全運転、交通マナー教育の充実を
5. 「中部新国際空港」建設は、慎重論が必要
  - ・ 地域住民、関係労働組合の意見を充分に反映して、建設の合意を
  - ・ 空の交通手段は、広域地域の交通体系に基づいたものにならなければならない。成田や関西への航空施設との整合性を充分に加味すること。

# 徳田 秋 必勝ニュース

くらしのドクタ

部内資料 NO. 15 95・1・10 名古屋市中区葵1-24-11

くらし・教育・平和をまもる清潔な革新県政をつくる会 052-933-5211 FAX052-933-5214

## 9日の告示前までに徳田の風をふかそう

各地域・団体の力をあげて、宣伝活動を強化し、すべての県民と対話し、悪政阻止、県民の要求を実現するために県下のすべての地域に徳田旋風をまきおこしましょう。

宣伝活動を成功させよう

・「みえの県政」1月号外の配布

4～16日…徳田大コール作戦 セスナ機も飛びます。

15日…新成人への訴え

告示前まであと9日、

徳田候補と先頭に元旦の熱田神宮前の年頭の訴えを皮切りに、2日真清田神社、3日豊川稲荷、4日三の丸、5日新日鉄での訴えなど第2次キャラバンを断片的にすすめている。また、各地域の連絡会の活動も、積極的なスタートを切って展開されている。

中日新聞は“95選挙展望”で、「徳田氏は、県内をこまめに回りミニ集会などで、くらしや教育、平和をまもる革新県政の重要性を訴えている」と報道している。また、同紙は鈴木氏について「赤字増進懸念や公共機関問題が一気に噴出…正式表明が3ヶ月遅れた」「県民の間には依然として苦悶感などに對する不信感が根深く」残ると指摘している。

医師歯科医師の会から

昨年末13,700人の医師歯科医師に訴えを郵送し、8日から電話作戦に突入。「読んでいただきましたか」と対話を始めています。呼びかけ人180人で出発し協力者は250人。徳田さんの同級生や名大第1内科の友人などから期待や激励もあいついでいる。さきほど友人や親しい患者さんの紹介運動もすすめ、医師歯科医師への働きかけとあわせて1万人と対話し、4000人の支持を目標に奮闘します。

悪政 悪政 悪政

昨年末行われた鈴木事務所開きでは「今日の日に式典をやらなきゃならんというのは、それなりに理由があったことを心に銘記すべきだ」との各党の挨拶が続いた。鈴木氏は、ゼネコン疑惑について「この辺で」とのべ幕引を表明し、大型プロジェクトをやり遂げるため「ぜひとも良い成績で合格させて欲しい」と強気の発言をしている。しかし、鈴木陣営内では投票率が30%を割るようでは、信任されたことにならないとの危機感を持って、官庁ぐるみ・企業ぐるみの締めつけに必死である。

年初からのマスコミの論調や、候補者へのアンケートで知事選の争点が赤字補填“いじめ”福祉にあり、新空港・瀬戸万博も重要な対決点となっている。